慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	小林行郎著 倉庫及税関
Sub Title	
Author	福田, 平重郎
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.2, No.2 (1909. 9) ,p.227(105)- 228(106)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090901-0105

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

む、此北狄の中、最も早く勢力を振へるは匈奴にして、彼の有名なる萬里の長城を築きしも其實此蕃族の入寇を防ぐが爲めなりと稱せらる、其他支那北部に據りし古民族にして漢史に散見するものにはツングース種に東胡、烏丸、鮮卑、托跋、慕、蠕々、契丹、奚、室韋、肅愼、勿吉、靺鞨、渤海女眞、滿洲あり、土耳古種に羯、丁令、高車、堅昆、黠戛斯、突厥、鐵勒、回紇等あり、然かも蒙古族の如く偉名を史上に留めしものはあらず、之れ實にブルーメンバッハをして世界の人類を區別する際、特に此民族の名稱を選び、以て黃色人種の總稱となせし所以にあらざるか。

此偉大なる民族の名稱が歷史上に見えたるは唐書の蒙瓦、及蒙兀を始めとなす、而して當時彼等の遊牧地は額涌古涅(アルダン)河と興安嶺の間にある原野則ち今日のハイラル附近なりしが、十三世紀の頃には既に西遷して、シルカ河の上流たる斡難河の流域に屯し、部長鐵木眞は自から蒙古諸部を征服して成吉思汗と稱し、進んで支那帝國に侵入して黃河の水に馬を洗ひ、又た一方には中央亞細亞よりインドス、エウフラト河畔を屠り、黑海の北岸に入りて露國の一部を掠め、更に其子孫をして欽察汗國、伊兒汗國、察合台汗國等を創建せしめ、當時の所謂世界的大國家をなさしめたり。而して此蒙古人の宏業偉蹟を傳へたるものにして今日學者の最も憑據とするものをドーソン男の蒙古史となす。

男はアルメニア人なり、而して外交官として巴里、ハーグ、伯林に駐在せしを以て自から史料の研究に便を得、加ふるに土耳古語、亞剌比亞語、波斯語、アルメニア語の素養深かりし爲め、波斯の有名なる史家ラッセット、エッヂンの著をはじめ、亞剌比亞文、波斯文、土耳古文等の史藉二十有種を參照せり、而して本書は第一冊に於て成吉思汗の事蹟を叙し、第二冊にて元來蒙古の盛衰を說き、第三第四に於て伊兒汗國の沿革を叙せり今回田中敎授によりて譯出せられしては其第一冊にして古英雄の面影さながら紙上に躍如たり、加ふるに譯本にては固有名詞は努めて佛文の原語を用ゐ、之れが漢字は洪鈞の譯書を參照して挿入し脚註は本文の中に收め、卷末の註も亦削除することなく、且つ讀者の便を圖る爲め原書第四冊に添附したる地圖を本卷に挿入せられたる等用意周到厚く敎授の勞を謝せざるを得ず。想ふに我國民にして滿韓經營を口にするもの多し。滿韓經營を論ずるものは更に進んで蒙古を知らざる可からず、蒙古の現狀に通せんと欲せば、溯て此民族の過去に於ける偉大なる發展を理會せざる可からず此著は獨り學界の珍たるのみならず、又た實に實世間に向て讀まる可き最も有用の書なりとす、吾人は敎授が一日も早く完成せられんことを切に希ふ妄評多罪(阿部秀助)

商學士 小林行昌著

倉庫及稅關

近時經濟學商業學に關する著書の刊行さるゝもの頗る多く汗牛充棟も啻ならざるやの感あるも系統ある著述として吾人の推賞するに足るの書の寥々たるは眞に我が學界の爲めに悲しむ所なり。

本書は著者が早稻田大學商業講義錄中に每號連載せしものを、更に訂正增補して單行本として、刊行せるものなり、

倉庫に關しては先きに內池廉吉氏の倉庫經營論あり、他に二三氏の著書なきに非ざるも、倉庫業の發達未だ幼稚なる我國に於て、兎に角この種の著作絕無とも云ふべき際、八百頁に垂んとする大冊を編纂したる、著者の勞は眞に多とするに足る、

序文中に曰く(前略)稅關に至つては全く系統ある商業學的說述これなきが如し、これ著者が寡聞自ら揣らず敢てこの新學科を捉へて大方碩學の斧正を乞はんとする所以なりと、以て著者の意のある所を知るに足るべし。

書中編を二に分ち先づ倉庫を說きて、然る後稅關に及ぶ、

論ずる所極めて平易且つ實際的にして、微細の

點と雖も、遺漏なく論議せんことを期するものゝ如し、殊に著者は第一編中に於て、倉庫業の實際的方面卽ち預り證券質入證券等その他につき、詳細なる說明を怠らざると同時に種々倉庫營業につき法律的說明をなし第二編中に於ても種々の稅關手續輸出入細則等につき實際的智識を提供したる等其の達筆と相まちて實際家を稗益する所少らざるを信ず。

凡そ商業學の一科につき詳細なる說明をなさんとせば必ずやその基礎は之を實務商慣習等におかざる可らざるも徒らに網羅するの多きを欲してエンサイクロペチヤ的の著述に陷るは決して書の完璧を望む所以の道ならずと信ず本書はかくの如き傾向あらざるなきか、評者はその說述の萬屋的なることより本書の倉庫論中に於ける地位を財政學上に於ける田尻博士の財政と金融に比せんとす。

書中各章每に挿入せるもの及び卷末に附せる種々の書式及び、表は亦讀者に多大の便宜を與ふるものと信ず。

兎に角評者は本書を以て、斯學に關する近來の好著とし、世の所謂實際家の一讀を薦むるに躊躇せざるものなり、（堀江平重郎）

前號福田氏論文に就ての正誤

○第二頁　第十一行
für die Gestaltは
für die die Gestaltの誤

○第三頁　三行以下七行までを削り
左の數行を以て之に代ふ
『資本の實際上に於ける作用より見れば、（予が前二卷に說きたる）直接生產經過に於ける其形態、及流通經過に於ける其形態は、特殊（部分）的要因たるに過ぎざるものにして、（實際に於ては）各種の資本は（此等要因を一括したる）種々の具象的形態に於て相對立するものなり。予が今此第三卷に於て論せんとする所は、社會の表面に於て、各種資本の相互の働作に於て、競爭に於て、並に生產働因（生產者）の普通意義に於て自ら起り來る（實際の）形態に漸次に近き來る資本形成の方式是れなり。』

○第五頁　八行
III,I.ii とあるは
III,i.s.II. の誤

○同　頁　九行以下十四行までを削り
左の數行を以て之に代ふ
『今斯く生じ來る利潤は餘剩價値と同一物たり唯其形態の神秘的なる（爲め之を看破する難き）のみ。然れども其は資本中心生產組織の性質上免る可からざる所なり。蓋し費用價格の形成の外觀上不變資本と可變資本とを區別すること難きが爲、生產經過中に起る價値變動の淵源は、可變資本のみに就て求むること能はずして、全資本額（可變、不變の合計）に就てのみ求め得可く、而して又一方に於ては、勞動力の價格が勞銀なる態に變りて顯はれ來る如く、他の一方に於ても、餘剩價値は利潤なる態に變じて顯はるるものなればなり。』

○第十二頁　五行
Tiremann は
Firemann の誤

○第十三頁　末行
マルクスの例にては20%は
マルクスの例にては22%の誤